令和４年度第１回　姫路市官民データ活用推進会議

別紙

〇　開会

〇　会長及び副会長の選任について

委員の互選により畑豊委員が会長に、小林直樹委員が副会長に決定。

〇　議題１「計画策定の進め方について」

事務局	〇　議題１に関する資料についての事務局説明
	〇　議題１に関する質問、意見
委員	令和４年 12 月下旬から実施するパブリックコメントについて、どのような形で行うことを想定しているのか。
事務局	ホームページ上で募集するとともに、市内の出先機関において計画案を設置する。また、できるだけ多くの意見をもらうような工夫を施したいと考えている。
委員	基本的には、会議の開催は４回で妥当だと考えているが、内容次第では、柔軟に第５回や第６回の会議開催が行われるという認識でいいか。
事務局	審議の状況に応じて対応させていただく。
委員	現在の計画においては、計画期間が令和４年度までとなっているが、本会議において結論が出ない等により年度を超えて開催された場合、計画期間における空白期間ができることになるが、事務局としてはどのように考えているのか。
事務局	現時点においては、年度を超えて審議することについて想定はしていないが、年度内に策定できない見込みとなった場合は、計画に基づいた事業実施に支障が出ないよう工夫するとともに、本会議において相談させていただきたいと考えている。
委員	各回会議において、議論が紛糾した場合に、継続した審議を別日程において開催することは想定しているのか。
事務局	会議の開催を増やすことにおいては、状況に応じて対応していく。

○議題２「計画の内容・方向性等について」

事務局	○　議題２に関する資料についての事務局説明
事務局	○　田上スマートシティ・DX 担当デジタル・マネージャーによる参考資料説明
	○　議題２に関する質問、意見
委員	情報は非常に重要な意義を持ち、利活用によって更なる発展が見込まれる。一方で、個人情報保護の視点も欠いてはならず、バランスをもって活発な議論をしていければと考えている。
事務局	本市市議会においても、DX、個人情報、さらにはデジタルデバイド対策について、意見をいただくことがあるが、漠然とした不安感を持つ市民に対してもさまざまな広報手段を使って理解していただくことが重要な課題だと認識している。
委員	次期官民データ活用推進計画の方向性について、国の重点計画と県の次期計画との整合性をとった上で、姫路特有の施策として「地域資源を豊かにするデジタル活用」をいう形でまとめている点については、従前の計画との整合性も取れているため、非常に良いと思う。 また、市民はデジタル化が重要であると認識している反面で、年々個人情報保護の感情が高まりつつあるため、これまで積み重ねてきた市の施策の上で、デジタル化と個人情報保護の両立をお願いしたい。
委員	高齢者を対象としたスマホ講座を開催している中で感じたこととして、講座を１年来られている方が成長して楽しそうにされている姿をみて、デジタルに対する不安や情報漏洩に対する不安は、デジタルとどう向き合っていけばいいのか分からないからこそ抱く不安だと感じるため、高齢者だからデジタルが使いこなせないという思い込みをなくすためにも、使いこなせる方を人材として活用しながらデジタルデバイドを解消していければと考える。
委員	ネットショッピングや電子申請に対して、高齢者に向けた対応に関しては、まだ黎明期であるがゆえに、デジタルに対して不安や恐怖が先行してしまうように感じる。
委員	高齢者のスマホ講座に関しては、セキュリティの安全性を担保したうえで、楽しさや便利さを感じてもらえるようなことを行っていく必要があるように感じる。 また、姫路市は情報発信の部分が弱いように感じる。政策を作っていくにしても、生活者

	に届くように整備していく必要がある。 必要な情報は存在しているのだけれども、しっかり発信されてないことで、市民に届いてないと感じることはある。
委員	市の情報がうまく伝わってこないというのは、市民として感じている。 マイナンバーカードの申請についても、情報が洩れるのではないかという不安から申請を躊躇っているところもあるように感じる。
委員	先ほど他の委員が高齢者のスマホ講座の件でおっしゃられたとおり、伝えていくことの連鎖は大事だと感じる。特に大人が大人に伝えるのではなく、子供が大人に伝えることで関心をもってもらえた機会を経験したことで、伝え方や誰がどう伝えるかということの大切さは感じた。 また、現在、国において整備されようとしている共通基盤において、地域の魅力を生かしたデジタル活用という部分でも議論していければと思う。
委員	２点あるが、１つ目に、施策のターゲットになる属性を、市民という大きなくくりではなく、子育て世代や高齢者、こどもなど分類した上で偏りがでないよう議論をしていく必要がある。 ２つ目に、地域のにぎわいに関して、CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の考え方だけでなく、CSV（Creating Shared Value：共通価値の創造）の考え方も必要になってきているように感じる。社会の課題や環境の課題を解決しつつ、企業が潤うことで持続可能な世の中を作っていけるように感じる。産業のデジタル化の部分に関しては、そのあたりも充実させていければと思う。
委員	マイナンバーカードの取得においては、市民にとってまだまだメリットが少ないように感じる。カードの普及に対してインパクトのあるような施策を考えていくべきだと感じる。 広報誌なども含めて市民に対してのユーザーインターフェースを意識した取り組みを行っていっていただきたい。
事務局	本会議において、委員の皆様が日常生活や仕事で感じていることをお伝えいただき、また行政の問題点や課題等を発言いただくことで、計画を策定することだけで終わるのではなく運用していく中で、市民の皆さんの生活が便利になったと思っていただけるようにすることが我々の仕事であるからこそ、本日のような意見をこれからもいただけると非常にありがたい。

会長	時間も来たので議事はこれで終了とする。 次回第２回官民データ活用推進会議の開催は、９月下旬ごろを予定しているため、各委員においては、後日改めて日程調整を依頼する。
事務局	（議事録の確認を後日委員に依頼すること、議事録は公開となることを連絡。）

１５時３４分　終了